

2012.06.04

「中国スパイ事件、予算委員会に鹿野大臣を呼べ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は6月4日月曜日です。今日、野田内閣は内閣改造をして、事実上、4月に我々が問責決議をした田中防衛大臣と前田国交大臣の更迭を行いました。そして、これから一番疑惑の焦点となる鹿野農水大臣、脱税疑惑と弁護士倫理規定違反の小川法務大臣、AIJ問題について、ほとんど当事者能力のない状態で、答弁できなかった自見金融担当大臣も交代させました。

今回の組閣で、初の民間の防衛大臣として森本氏を防衛大臣に任命したというのはあり得ないことです。そもそも民主党が「私は防衛政策の素人だ」と言う方々を歴代防衛大臣に任命したこと自体が問題です。今度の防衛大臣は自衛官出身の方ですから、防衛政策について、例えば参議院で佐藤正久議員が追及しても答えられるのかもしれませんが、そういう意味では安定した答弁ができるのかもしれませんが、防衛政策というのは、まさに国の根幹に関わる問題として政治家が様々な政治的判断をも含めて、意思決定をしていかなければならないのです。その役割を民間人に任せてしまうというのは、一体どういう考えなのでしょう。このことは民主党に人材がないということ、人材が底を突いているということを示しているだけではなく、民主党は政治主導で何でも官僚に任せるのではなく、我々が意思決定をすると主張していたはずですが、結局

は官僚に頼れず、自分達自身の政治家の能力のなさをも示しています。自衛官出身の大学の先生に答弁して頂くと、答弁については安心して見ていただけるかもしれませんが、防衛政策をどのようにやっていくかというのは、民間人が決めていける範囲ではないのです。そういうことから考えましても、今回の組閣人事は出鱈目であると言わざるを得ないと思います。

特に今のような6月21日に会期末が迫ってきている時にようやく問責大臣を替えたのですが、なぜ今頃になったのでしょうか。本来、もっと早い段階の4月に替えていれば、参議院も国会も不正常な状態ではなかったのですから、ずっと審議はできたのです。

民主党政権には税と社会保障の一体改革だけでなく、様々な懸案事項があります。その中でも、特に予算案は通していますが、予算のための財源の特例公債法等はまだ提案すらしていないのです。こういった重要な法案をしっかりと通していかないと、予算の執行ができないのです。そう考えると、本来は予算の審議が終わったら、次々と審議日程を組み込んでいくべきでした。それを自ら放棄し、参議院は問責が出されたから、とにかく審議できません、という状況を作ってきた理由は、参議院の問責をいいことに国会の追及を避けるため、わざと問責大臣をそのまま置いて、国会が開けない状況を作ってきたとしか考えられません。

今回の内閣改造によって、いよいよ衆議院の方で消費税増税法案の採決をし

ていくということになると、この問題は参議院の方に回ってきますから、参議院で議論できる状況もまた作らなければなりません。鹿野農水大臣と筒井副大臣の中国スパイ事件に絡む農産物の輸出問題、これがますます大きな問題としてクローズアップされてきましたから、その疑惑を隠すために今回の組閣をしたのだろーと思います。我々が、その問題を追及していた段階ではまだ鹿野大臣には問責は出していませんでしたが、この問題が後々大きくなってきたため、早く替えないと問題が多くなり、自分達が死に体になると踏んだのでしょう。だから今、まとめて内閣の改造をしたということなのでしょう。それにしましても、国益のために国会の審議をするということが一番の責務であるのに、自らの政権の身の安全しか考えていないということは、このこと一つとっても分かることです。

我々自民党の立場からすれば、大臣の交替は、それはそれでいいのです。もし替えていなければ、私も鹿野農水大臣の問題を質問するメンバーとして、財政金融委員会から差し替えで質問をすることになっていました。今回、案の定その質問を封じるために農水大臣を辞めさせてしまいました。ですが、総理の任命責任もあるわけですから、予算委員会場でまず、この疑惑の問題についての整理をしてもらわないと、他の法案の審議や他の委員会の審議ができないと通達して参りました。

ところが、これもまた民主党の出鱈目なのですが、石井一予算委員長がフィ

リピンに許可を得ず、勝手に渡航していた問題に責任を取って辞任表明をしています。けれども、民主党から後任の候補が挙がってこないで、本会議を開いて辞任の手続きをさせることができていないのです。辞意を表明している委員長のもとでは委員会を開けませんから、まず予算委員長の更迭をしてもらわなければならない。このために6月6日水曜日に本会議を開いて、新しい予算委員長を決めるための本会議を開く予定になっていますが、それが決まった以降でないと、予算委員会が開けないのです。我々は最短ですと、水曜日の昼からでも予算委員会を開いて頂き、鹿野農水大臣のスパイ問題について徹底的に議論をしていきたいのです。そして、そこには当然のことながら、鹿野農水大臣と筒井副大臣を参考人として呼ぶ必要があります。また、前から田中公男さんを参考人として招致することを要求していますから、これも実現して頂きたいと思います。

ここでまず、民主党が一体どんな出鱈目をやってきたのか、このことを国民に見て頂かなければならないのです。口では政治主導だと、国民の生活を守るのだと言ってきましたけれども、彼らがやってきたことは政治主導の名前のもとに自らの利権を拡大するビジネス、しかもそのビジネスの相手が中国人のスパイだというのだったら、これはもうお話になりません。冗談にもならない、そんな愚かなことをやってきたのです。国民の生活を守ると言ってきましたけれども、結局は消費税の話にしても、実際に審議をするつもりはなく、それよりも

何とかして引き延ばしをして、後は来年の任期満了まで衆議院の解散をしたくない、と言う話が民主党の内部の色んなところから出てきています。

今日は問題のある大臣を追及する自民党のプロジェクトチームの会合がありました。ここで新たに中国人スパイ問題は別建ての特別チームを作り、私もその中にまた入ることになりました。徹底的にこの問題の調査をして、国民に訴えていきます。そしてさらに、我々自民党だけでなく、他の野党の皆様方にも協力を呼び掛けて、この疑惑の追及を行っていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、彼らがどういう対応を取るのか、今週は彼らにまたボールを投げましたので、そのボールが返ってくるのをしっかり見極めたいと思います。誰が大臣に替わろうと、もうこれ以上、野田政権はもちません。6月21日の会期末までに解散総選挙を決定づける、そのために徹底した論戦を挑んでいきますので、是非皆様方にもご注目して頂きたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。